

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通

2017

冬

12月1日発行(季刊)



## 茶の湯の源流を訪ねて

晴友会の研修旅行で、京都の西、梅尾の高山寺を訪ねました。開山した明恵上人は栄西禅師からお茶の種を受け取り、茶園を作ったのが今からほぼ800年前の事です。茶の湯の一歩がここから始まったのだという感動がありましたね。 (8頁に関連記事)

第三回 あ・うんの数寄講座 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習 その二  
茶室設立二十周年記念茶会 野村美術館茶会  
12月から2月までの茶華道・イベント情報  
財団の活動報告とお知らせ

## 第三回 あ・うんの数寄講座 その二

# 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

茶の湯の楽しみは、人それぞれに大きく異なると思います。釜が好きな人。茶碗が好きな人。墨跡が好きな人。茶花が好きな人。お点前が好きな人。茶事が好きな人。いろんな嗜好の数寄者が茶道という共通の世界に在って、楽しみを共有する事に心を碎いてきたと思います。おそらく一生尽きる事のない迷宮を少しでも深いものに出来る事を願つて、また次回の企画を考えたいと思います。ありがとうございました。

■第四回 八月六日(日)

### 「黒田家の竹工芸」

講師：黒田正玄

(千家十職竹細工・柄杓師 十四代当主)

報の報告とともに、当財団に対する先代の思いに応えるために今日ここに訪れたと語つてくださいました。

そして黒田家のお仕事のお話になります。

「黒田正玄さん(くろだ・じょうげん)」千家十職十三代竹細工柄杓師)が七月二十四日死去、81歳。喪主は長女の十四代正玄(本名・益代)さん。

この訃報に当財団に激震が走りました。なぜなら一週間後の夏期講習に黒田家十四代当主を講師にお迎えしていたからです。

湯をさらに楽しむ夏期講習は幕を開けました。

京都嵐山の竹林の小径を映し出す映像の前に立たれた十四代は最初に先代の訃

の無いものが厳選されて初めて茶道具の素材になるのだそうです。

柄杓や茶杓に使う竹は真竹だそうです

が、真竹は別名苦竹と言われ、筍として

食用に収穫される孟宗竹とは違い、エグ

みが強いので通常は食用されないことが

ら始まるそうです。最近では整備された

竹やぶが激減して使える竹がなかなか見つからないそうです。

竹細工師の仕事は竹を見つけることか

ら始まるそうです。最近では整備された

竹やぶが激減して使える竹がなかなか見

つからないそうです。

使える竹とは太さや色、節間だけでな

く、変形やしみも含めて作る茶具にあつ

たもので、茶道で使う竹細工は柄杓をは

じめ花入、茶杓、香合などがありますが、

逆に言えば竹を見てどの茶具にするか考

えて伐採してくるそうです。

しかも伐採した竹を二ヶ月ほど乾燥さ

せ、油抜き作業をし、その後一月半ほど

天日干しして、さらに風通しの良い日陰で数年寝かせて、反り、割れ、変色など

そして千家十職である黒田家のお話になりました。

初代正玄は今の福井県辺り越前の武家の生まれで関が原の戦いで西軍に属していましたために改易、その後大津に移り住みたため評判を高めた正玄は京都に移り住み遠州流の祖、小堀遠州に茶を修行し、その縁から江戸幕府とのつながりを作りました。その後大徳寺の江月宗玩の紹介で千宗旦に柄杓を収めるようになります。

わび茶の完成者として知られる千利休、その簡素簡略の境地を重んじた利休ですが独特の好みを持つて茶道具を選んでいました。



その後を次いだ宗旦も利休の茶風を残すと職人を指導し、利休好みの作品を作れる者を重宝するようになり、十七世纪頃から千家の茶会に欠かせない数人の職人が選ばれてきました。

千七百三十九年の利休・百五十年忌の茶会では五職が招かれており、その後八職から十二職の間で変動したようですが、天保十一年(一八百四十年)の利休二百五十年忌の頃には現在の茶碗師、釜師、塗師、指物師、金物師、袋師、表具師、一閑張細工師、土風炉・焼物師、そして本日の講師である黒田家の竹細工・柄杓師にまとまってきたようです。

黒田正玄の名は千七百五十八年に行われた宗旦・百年忌茶会の最終日に招かれた十職人の中に入り、年号から考えると五代正玄ですが、それ以前から初代は千代を襲名。黒田家初の女性当主です。現在の黒田正玄は平成二十六年に十四代を襲名。

「茶道の祖は男性が多いのでその茶道具も男性の手の大きさに合わせて作られていました」と女性のサイズにあつたお道具を提案できないかと考えているそうで、このような女性ならではの感性を生かした作品作りを目指していかれます。

大変な時期に来高し講習していただき感謝に堪えません。

あつという間の一時間半でした。

(香川一郎)

## ■ 第五回 八月二十七日(日) 「茶の湯を楽しむ」

講師：木下 收

(北村美術館 館長)

茶の湯とは何か。「美を発見する為に美を隠し、表す事をばかかる事を暗示する術である」と岡倉天心は言いました。

しかし私は、茶の湯を勉強するなら、井伊直弼から入った方がわかりやすいと思います。優れた茶人でもあつた大老井伊直弼が『茶湯一會集』で、一期一會や独座觀念といった茶事の心得を説き、茶の湯が政道も含めて全てに通用する道であると言わされました。彼は大名でありながら「茶を点てて、道具求めて、蕎麦食らい、庭を造り、月花を観る。その他に望みなし」という方です。

もう一人の大名茶人松平不昧公は、「露地數寄は宗旦、物數寄、好み物は宗甫との、茶の法は宗閑どの、一人にしたら天下一なり。その心にて修行すべし」これは茶の湯の三大要素です。露地數寄は茶室や露地などの設え。宗甫は道具に傾倒した小堀遠州。宗閑は、徳川家の茶道指南となつた片桐石州のことです。

わび茶に至る歴史を振り返つてみると、「茶は医薬に始まり飲料になつた」とつとして詩歌の領域に登場した(岡倉天心)日本では『日本後記』弘仁六年

八五年に僧永忠が嵯峨天皇に近江の梵寺で献じられたという記録が最初です。その後『喫茶養生記』(一一二一)を遺した栄西禅師が宋からお茶の種を持ち帰り、高山寺の明惠上人に託して茶の栽培が始まつたとされています。以来、お茶は禅寺の茶礼に始まり、会所のお茶、闘茶を経て、一服一煎のお茶という事で嗜好的なものとなりました。今でも建仁寺では、茶礼を体験できます。

千利休は、わび茶の祖と良く言われますが、道は村田珠光に習い、術は武野紹鷗に習つたとあります。利休より百年前に生まれた珠光は、一休禅師に禅を学び、お茶は足利義政の同朋衆であつた能阿弥に学びました。

「月も雲間の無きは嫌にて候 これ面白く候」という歌も有名ですが、それよりも百年前に吉田兼好は「花は盛りに月は隈なきのみを観るものか」と歌つてますし、それよりも以前には、鴨長明は、一丈四方の草庵を結び閑居の樂しみを謳歌しました(方丈記)。つまり日本人は中世の頃からずっと不完全の美を求めていたんじゃないかと思います。

白洲正子は、「不完全な言葉が集まって連歌を作るよう、不完全な道具が集まってお茶の世界を形作る。それが日本の伝統である」と言いました。



能阿弥は「君台觀左右帳記」という室町時代の書院や床飾りについての伝書を残しましたが、珠光は書院のお茶から簡素な地下茶の湯を取り入れ、さらに「茶禅一味」という精神性の高い茶の湯を目指しました。また道具でも、珠光青磁と呼ばれる不完全な茶碗を取り上げ、床には園悟克勤の印可状の墨跡を掛けました。

町時代の書院や床飾りについての伝書を残しましたが、珠光は書院のお茶から簡素な地下茶の湯を取り入れ、さらに「茶禅一味」という精神性の高い茶の湯を目指しました。また道具でも、珠光青磁と呼ばれる不完全な茶碗を取り上げ、床には園悟克勤の印可状の墨跡を掛けました。

（長闇堂記）

私に言わせれば、利休の茶の湯は、シンプルイズベストだと思います。



先だっての財団主催あ・うんの数寄「若人茶会と讚岐もの」は三年目を迎える。玉藻公園披露閣での二日にわたる賑わいぶりは本誌夏号に詳しく述べてあります。『若人に習う茶もあり』に紹介しました。

その席の一つ、ヤングヤング（子供茶の湯講座・山下純子先生）の可愛いお茶人たちが、モダンな天遊卓に据えた小ぶりの土風炉に掛けた陶器の富士釜が話題になりました。

珍しがられた茶釜は源内焼で、十四・十五年前、瀬戸内海歴史民俗資料館「讚岐の古陶磁展」で持ち寄り展示の香炉や茶碗、香合、水指、手あぶりなどの茶道具から、懐石用の皿や鉢、飾り置物などを見て、それらを本来の姿（茶室での道具組）にして郷土のお茶文化を語りあいたいと、財団の月釜「さぬきもの茶会」を担当していました。

茶陶の湯釜を新説されるとの話に便乗させてもらつたものでした。

久しぶりに見た緑釉陶器の茶釜に昔日の思い出話が重なりました。



## くにもの（27） 源内焼の茶釜

「若人茶会と讚岐もの」は三年目を迎える。玉藻公園披露閣での二日にわたる賑わいぶりは本誌夏号に詳しく述べてあります。『若人に習う茶もあり』に紹介しました。

先だっての財団主催あ・うんの数寄「若人茶会と讚岐もの」は三年目を迎える。玉藻公園披露閣での二日にわたる賑わいぶりは本誌夏号に詳しく述べてあります。『若人に習う茶もあり』に紹介しました。

絵と華やか取り合わせになりました。絵は盛阿弥作の尾長鳥時絵。茶杓は數内竹翁共筒で銘は「侘の友」。茶碗は高原焼菊絵茶碗は徳川家の御用窯だそうです。次碗は萩胴締茶碗と三碗は初期京焼のひとつで御菩薩焼の笛絵茶碗が使われました。

建水は明時代の七宝唐花文。蓋置は後陽成天皇の皇子、常修院の作による寄竹蓋置という珍しいものが使われました。

一般的に普段、直接触れる機会のない道具での茶会を実現していただいて非常に希有な茶会になりました。遠路よりお集まりお手伝い下さった茶友の皆様にも感謝申し上げます。

## お菓子な話 その33

### 大人のコロネ発見

一般的に「コロネ」と言えば日本で開発された菓子パンの一種でパン生地を円錐形の金属製芯（コルネ型）に巻貝状に巻きつけ、焼き上げたのち、チョコクリームを詰めた「チョココロネ」を思い浮かべませんか？

また、ケーキ屋さんの「コロネ」はパイ生地にカスタードクリームを詰めたスイーツですよね？

志度にある“Ainaふろーりあん”的コロネはパイ生地ではなく、パンのデニッシュ生地を使って作られていて、注文してからクリームを詰めてくれるので、外はサクサク中はデニッシュのようにしっとりした食感のパイとデニッシュのいいとこ取り。

普通のコロネのようにはらぱらと生地がこぼれ落ちることがないのも嬉しいところですね。

クリームは「カスタード」と「チョコクリーム」の二種類あります。サクサクしっとりのコロネを食べてみてはいかがですか？



は浦生氏郷共筒、銘「もしほたれつつ」。茶碗は二碗飾られ、ひとつは青井戸で、十六世紀の朝鮮王朝時代、遠州筆と伝わる銘は「落葉」。もうひとつは本阿弥空中作の黄釉茶碗。

薄茶席の本床には、加賀前田家伝来の

熊野懐紙。鎌倉時代。寂蓮筆で行路水と夕炭竈の二首の和歌が詠まれています。

花入は、明時代の籐組で唐物木耳籠に見事な照り葉が入れられました。香合は仁清の羽子板。琵琶台には十八世紀前半に活躍した蒔絵師、小川破笠作、歌仙硯箱が飾されました。

点前座は、棚が朝鮮王朝時代の螺鈿葡萄草文旅簾筈で、藪内流燕庵伝来の東山御物が、目を引きます。水指は色も鮮やかな和蘭陀青釉。釜は十代淨雪作の墨坐富士釜。炉縁は五代宗哲作の高台寺時

絵と華やか取り合わせになりました。絵は盛阿弥作の尾長鳥時絵。茶杓は數内竹翁共筒で銘は「侘の友」。茶碗は高

原焼菊絵茶碗は徳川家の御用窯だそうです。次碗は萩胴締茶碗と三碗は初期京焼のひとつで御菩薩焼の笛絵茶碗が使われました。

建水は明時代の七宝唐花文。蓋置は後陽成天皇の皇子、常修院の作による寄竹蓋置という珍しいものが使われました。

一般的に普段、直接触れる機会のない道具での茶会を実現していただいて非常に希有な茶会になりました。遠路よりお集まりお手伝い下さった茶友の皆様にも感謝申し上げます。

入席時間ご案内（各席十五名）	
第一席九時	第二席九時五十分
第三席十時四十分	第四席十一時三十分
第五席十二時二十分	第六席十三時十分
第七席十四時	第八席十四時五十分
各席二時間三十分を予定	
和菓子講座 高橋初乃先生	
一月十二日（金）午前十時～十二時	
ヤングヤング（子供茶の湯講座）	
山下純子先生	
一月十三日（土）・二十七日（土）午後一時～	
月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日	
一月十六日（火）午前十時～午後四時迄	
自由なお時間にお出掛け下さい。	
ランチは要予約です。	
書道教室 森本義人先生	
一月十九日（金）・二十六日（金）午前十時～十二時	

## 二月

### 書道教室 森本義人先生

二月一日（金）・十六日（金）午前十時～十二時

### 二月月釜 五人様茶会

竹井先生からの「立春大吉 寿ぎを祈るひとときを皆様どご一緒に」と合わせてご案内致します。

日時 二月四日（日）

### 茶席 濃茶・薄茶・点心席

席主 武者小路千家 竹井守恵  
会費・入席時間 十二月五人様茶会と同様

### 懐石講座 三友居 山本勝先生

二月六日（火）午前十時～午後三時

### 和菓子講座 高橋初乃先生

二月九日（金）午前十時～十二時

### ヤングヤング（子供茶の湯講座）

山下純子先生  
二月十日（土）・二十四日（土）午後一時～

### 月に一度の喫茶室 每月第三火曜日

二月二十日（火）午前十時～午後四時迄

### ランチは要予約です。

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要です。  
お申し込み、お問い合わせは、当財団事務局  
まで（水曜日休館）高松市番町二丁目一―十二

# 茶 華 道 ガ イ ド

表千家同門会香川県支部 ☎ (087) 845-4638	茶道裏千家淡交会高松支部 ☎ (087) 861-3136	2/18 席主: 渡邊宗芳 (裏千家 川原宗津社中)
12/3 香川県支部創立記念茶会 主席: 真鍋容子、安西朱美 満濃農村環境改善センター 1,000円 9:00~15:00	12/10 高松青年部チャリティ茶会 主席: 高松青年部 中野天満宮天神会館 前売1,000円・当日1,100円 9:00~15:00	栗林公園内花園亭 ☎ (087) 831-5255
2/11 東讃四季茶会 席主: 上田桂子 中條文化振興財団 600円 9:00~15:00	2/4 淡交会高松支部月釜 席主: 高橋宗久 中野天満宮天神会館 前売600円・当日700円 9:00~15:00	2/11 花園亭節分茶会 主席: 裏千家 平池宗秀 3,000円(節分点心付) 9:00~15:00
2/25 中讃春秋茶会 席主: 三木真弓 善通寺護国神社 600円 9:00~15:00	2/11 栗林公園「節分茶会」 席主: 平池宗秀 栗林公園花園亭 3,000円(薄茶・点心付) 9:00~16:00	中條文化振興財団 ☎ (087) 826-3355
<b>琴平月釜茶会</b> ☎ (0877) 58-9551	<b>石州流讃岐清水派石州会</b> ☎ (087) 898-6569	12/17 12月月釜 五人様茶会 5,000円 濃茶: 石州流讃岐清水派石州会 石原宗惠 薄茶: 石州流讃岐清水派石州会 野口宗真 初釜 席主: 表千家流 美澤宗包 8,000円
12/2~3 第45回琴平町 歳末助け合い チャリティー茶会・煎茶静風流 主席: 金丸洋子 町総合センター 200円 9:00~15:00	1/21 西徳寺月釜(東讃茶道懇話会) 主席: 野崎宗美 池戸西徳寺 600円 9:00~15:30	1/5 2月月釜 五人様茶会 5,000円 主席: 武者小路千家 竹井守恵
<b>茶道裏千家淡交会香川支部</b> ☎ (0877) 62-0798	<b>東讃茶道懇話会</b> ☎ (087) 898-0391	以上の茶会はいずれも点心席を含みます。 詳細は、財団行事予定をご覧ください。
12/10 月釜(丸亀分会) 席主: 大場宗雪 丸亀生涯学習センター 500円 10:00~15:00	1/21 月釜 席主: 石州流 野崎みや子 池戸西徳寺 600円 9:00~15:30	
2/4 月釜(坂出分会) 席主: B班社中 坂出勤労福祉センター 500円 10:00~14:00	<b>武者小路千家香川官休会</b> ☎ (087) 851-2258	
3/4 月釜(多度津分会) 席主: 石川宗雅 多度津総合福祉センター 500円 10:00~15:00	1/28 香川官休会月釜 席主: 男子組 無量寿院 600円 9:00~15:00	
3/18 月釜(善・琴分会) 席主: 山下宗澄 樟蔭軒 500円 9:00~14:00	<b>高松市香南歴史民俗郷土館</b> ☎ (087) 879-0717	
	<由佐城月釜茶会> 第2研修室(和室) 当目500円 9:30~14:00	
	12/17 席主: 綾野宗悦 (茶道石州流宗家高松会)	

# イ ベ ン ト ガ イ ド

12/23~4/15 [平成29年度第Ⅲ期常設展] 青と黒、ときどき赤 一単色の魅力ー 9:00~●	<b>坂出市民ホール</b> ☎ (0877) 45-1505	1/21 名作映画まつり 「五番町夕霧楼」「雪国」「夜の河」3本立 丸亀市生涯学習センター 3階ホール 10:00~●
<b>高松市石の民俗資料館</b> ☎ (087) 845-8484	12/3 名作 in シネマ「徘徊」 10:30~、13:30~●	2/14~25 香川県文化協会西讃支部美術展覧会 9:30~■ 「絵画」丸亀市生涯学習センター 1階ギャラリー 「書」丸亀市立資料館1階展示室 「写真」丸亀市立資料館2階
12/1~10 共催展「師走展(前期)」 企画展示室 9:00~■	12/10 坂出市民芸術祭 日本舞踊公演 11:00~●	
12/15~24 共催展「師走展(後期)」 企画展示室 9:00~■	12/24瀬戸フィルハーモニー交響楽団 クリスマスコンサート 13:30~■	
12/17 Slide To Sing ~mokti trombone quartetが贈る クリスマス~ エントランスホール 18:30~●	<b>かまどホール</b> ☎ (0877) 46-2178	あーとらんどギャラリー ☎ (0877) 24-0927
1/6~2/11 企画展「さぬきアートプロジェクト 四宮龍展 Wave シリーズ2018」 企画展示室 9:00~●	12/1~15 横田由美 書道展 10:00~■ 1/6~26 現代工芸美術家協会 四国会展 10:00~●	12/3~24 豊沢英之+斎藤朋子+谷本久美子 展 10:00~■ 1/7~28 妻鳥 健 展 10:00~■ 2/16~18 アート名古屋 展 10:00~■
2/17~3/18 共催展「石の旅路 一小豆島から上方へ江戸へー」 (徳島文理大学文学部学生による展覧会) 企画展示室 9:00~●	2/3~25 さとうゆうじ・ゆき 2人展 10:00~● 3/3~25 溝渕美悠紀 手描き友禅と俳句 10:00~●	<b>ハイスタッフホール</b> ☎ (0875) 23-3939
<b>土庄町教育委員会</b> ☎ (0879) 62-7013	<b>サクラートたどつ</b> ☎ (0877) 33-3330	
<b>【土庄町立中央公民館】</b>	<b>【多度津町民会館】</b>	<b>【観音寺市民会館】</b>
12/8、1/12、2/9 古文書を読む会(8~10) 江戸時代の和歌等を読み解いて 講師: 加藤 優(元徳島文理大学教授) 講座研修室 14:00~●	12/17 多度津中学校吹奏楽部 第4回アンサンブル発表会 2階ホワイエ 10:00~■ 2/24 「劇団四季」ファミリーミュージカル 「ガンバの大冒険」 ホール 18:00~●	12/13 古澤巖×ベルリン・フィルハーモニー・ ヴィルトゥオーゾ 大ホール 19:00~● 1/21 NHK交響楽団 観音寺特別公演 大ホール 15:30~● 2/4 第13回 観音寺市民音楽祭 大ホール 11:30~■ 2/7 中村美津子 コンサート 大ホール 14:00~、18:00~● 2/24 東日本大震災福幸支援コンサート 和楽器演奏集団 独楽(こま) 大ホール 18:00~●
	<b>丸亀市文化協会</b> ☎ (0877) 24-8822	
12/10 第25回土庄町音楽フェスティバル 大ホール 13:00~■ 3/4 土庄町芸能まつり 大ホール 13:00~■	1/19~21 丸亀市文化協会自主展覧会 「丸亀書道代表作家展」 丸亀市立資料館1階展示室 9:30~■	

「文化通心」第97号は3月1日発行です。次の期間(3月1日から5月末日)の情報を、2月10日までにお知らせ下さい。 FAX (087) 826-2212

# イベントガイド

香川県立ミュージアム ☎ (087) 822-0247

~12/24	アートコレクション 20世紀の美術Ⅱ 常設展示室2	9:00~●
12/1~24	アートコレクション 香川の風景 常設展示室4・5	9:00~●
12/8~2/18	伊勢御師が見た讃岐 常設展示室1	9:00~●
1/2~21	第64回 日本伝統工芸展 特別展示室他	9:00~●
2/23~4/22	四国を繋ぐ 一大久保謹之丞と四国新道一 常設展示室1	9:00~●

【瀬戸内海歴史民俗資料館】

~12/17	さぬき育樹ものがたり	9:00~■
<b>高松市歴史資料館</b> ☎ (087) 861-4520		
【サンクリスタル高松】		
~3/25	学習室展「讃岐の方言を 料理(デザイン)する」	9:00~●
~12/24	収蔵品展 「戦国時代の高松市」	9:00~●
1/27~3/18	第74回企画展 「龜井東渓と南蘋派～華麗なる 動植物画の世界～」	9:00~●

菊池寛記念館 ☎ (087) 861-4502

【サンクリスタル高松】		
<各月の文芸講座>(先着80名)		
12/2	3階第1集会室 額田王の世界	13:30~■ 講師:東城敏毅
1/6	ずいひつ『文章教室』の現場から・3 講師:篠永哲一	
2/3	菊池家文書から読み解く近世高松 講師:太田 剛	
3/3	「平家物語・敦盛最期」におけるあはれ 講師:小野泰子	

高松市生涯学習センター ☎ (087) 811-6222

12/2	朗読で脳を活性化 !! ～読む人、聞く人募ります～	
12/12	大研修室 古墳時代の大集落の実像に迫る ～萩前・一本木遺跡の集落とくらし～	13:30~■
12/13	大研修室 フラワーアレンジメント講座 ～クリスマスリースを作ろう～	13:30~■
12/14	実習室 苔玉作り教室 実習室	13:00~● 13:30~●
12/15	七宝焼で作る素敵なアクセサリー教室 ～あなただけのショールピンを作ろう～	
12/23	実習室 親子竹細工教室 実習室	13:30~● 13:30~●

高松テルサ ☎ (087) 844-3511

12/4	「生活に親しむ書」無料体験会 会議室	13:00~■
12/7	「漢詩を読む・作る・楽しむ」無料体験会 会議室	13:00~■
12/26	お子様書き初め・書き方講座 会議室 硬筆13:00~、毛筆15:00~●	
1/7	子どもも大人も気分は タカラジェンヌ ! 2nd ホール	10:00~●
1/13、14	第15回こどもエコ絵画コンクールに 挑戦しよう !(2日で1作品) 会議室 10:00~、13:00~●	
1/14	和三盆干菓子をつくろう 会議室	10:00~、13:00~●

2/4、6 スプリングチョークアート(2日で1作品)  
会議室 10:00~、13:00~●

栗林公園観光事務所 ☎ (087) 833-7411

~12/3	特別名勝栗林公園 秋のライトアップ (入園料要)	18:00~21:00
12/16	栗林碩学セミナー 「栗林公園一步一景のひみつ」 (入園料要)	13:30~■
1/4~2/20	冬のあったか和船キャンペーン (入園料要)	9:00~●
2/17~18	特別名勝栗林公園梅まつり (茶会400円、入園料要)	10:00~

【サポートホール高松】

1/28	木嶋真優&横山幸雄 デュオ・ リサイタル 大ホール	14:00~●
2/10	高校演劇フェスティバル 第1小ホール	14:00~●
2/18	Sing a song 大ホール	14:00~●
3/3、4	第7回サポートホール高松 デビューリサイタル 第1小ホール	各日14:00~●

NHKふれあいギャラリー ☎ (087) 825-0160

12/5~10	第11回NHKカルチャー 漢字書道教室作品展 NHKカルチャー漢字書道教室(A・B)	9:30~■
1/9~14	春を迎えて 四角オリガミ	9:30~■
2/6~11	私達の写真展 フォトクラブ彩光	9:30~■
2/20~25	第22回創桿展 四国電力書道部創桿会	9:30~■

桜ショッピング高松店 ☎ (087) 831-8866

12/1~7	高橋一夫・百の木鬼(2年の間つくり 続けた木彫の鬼の数々)	10:00~■
ギャラリーen ☎ (087) 851-3711		
12/8~15	三原佳子 作品展(着物・刺しゅう)	10:00~■

【社のとなり】

1/17~24	鈴木涼子 作品展(陶器)	10:00~■
2月下旬	水垣千悦 作品展(陶器)	10:00~■
珈琲俱楽部櫻 ☎ (087) 823-0160		
~12/10	Ben Yamaguchiのオブジェ展	10:00~■
12/16	チエロ名曲コンサート 2回公演 出演:片山早智夫(チエロ)・ 藤川孝子(ピアノ) (定員:各20名)	13:00~、15:00~●

内町ギャラリーTamamo ☎ (087) 822-1037

~12/3	一織る・染める・紡ぐ 安達聖子展	10:00~■
12/6~10	Fur & Leather展 SUNRASCAL 「津田将志」の工房から職人の手仕事で 仕上げた作品多数を展示	10:00~■
1/10~14	Fur collection SUNRASCAL	10:00~■

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎ (087) 879-0717

~12/3	企画展「日本刀展—もののふの美—」	9:00~■
12/9~1/14	企画展「屋嶋城と相作馬塚古墳を掘る ～平成28年度遺跡発掘調査速報展～」	9:00~■
1/19~2/14	企画展「第17回 篆刻展」	9:00~■
2/18~3/18	企画展「第17回 郷土の文化拓本展」	9:00~■
2/24	耳をすませば	9:00~●

高松市塩江美術館 ☎ (087) 893-1800

~12/10	[企画展]所幸則展 ～うさぎガールと黒縁眼鏡～ ～天使からの系譜～	9:00~●
~12/17	[平成29年度第II期常設展] 耳をすませば	9:00~●
~12/16~2/4 [企画展]一道を往く一展		
12/16~2/4	9:00~●	

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。(記号表記は判明したもののみ)

※上記予定は変更する場合もあります。

# ■財団の活動報告とお知らせ

## 中條文化振興財団・

### 文化活動奨励事業

去る十月二日（月）、当財団の立礼席において、平成二十九年度財団賞授賞式及び助成金交付団体認定書授与式を行いました。

財団賞は、讃岐かがり手まりの伝承と普及活動をされている荒木永子氏と、玉藻公園にて長年ボランティアでお抹茶の接待をされている久保宗照氏、助成金の交付認定団体、鬼ヶ島文化村、塩飽大工顕彰会、西谷美紀氏に、岡市代表理事より賞状及び認定書を贈呈致しました。受賞者の挨拶では、活動の状況や事業の報告などが行われました。



1列目左側が荒木永子氏、2列目左側が久保宗照氏

## ■晴友会研修旅行 北村美術館と梅尾山高山寺

紅葉も走りの京都を訪ねて十月二十五日と二十六日に研修旅行に行きました。

初日は、夏期講習でもお世話になりました北村美術館の開館四十周年記念展「旅宿時雨」の見学と木下館長の特別なご配慮で四君子苑のお茶室「看大」でお茶をいただきました。四君子苑は昭和の数寄者・北村謹次郎の旧邸です。菊の高貴、竹の剛直、梅の清冽、蘭の芳香を四君子に讃える中国の風習に由来して名付けられたそうです。また、石造美術の宝庫ともいわれ、重要文化財三点を含む六十点が、庭園の中に所を得て美しく調和していました。

翌日の高山寺では、鎌倉時代に建てられた「石水院」（国宝）の床で、やはり國宝の「明惠上人樹上坐禪像」を拝見という希有な体験も出来ました。

また、昭和六年の上人の七百年遠忌に香庵も特別に拝見させていたしました。その他、槇尾山西明寺、高雄山神護寺と三尾巡りをして帰途につきました。

## 編集後記

一年納めの月、師走となりました。あれもこれもとしなければいけない事の多い時期ですが、ここを落ち着けて一年をふりかえってみるのも大切だと思います。

当財団も春夏秋冬それぞれにあわせて、事業計画を立て取り組んできました。ご参加いただいた方々からのご意見やご希望など伺いつつ、さらに楽しんでいただけるような催しにしていきたいと思っています。

また、財団賞や助成金の交付の決定を通じて、様々な活動や調査研究、長きにわたるご奉仕などを知ることができ感謝でした。今後もご活躍されることを願っています。

新しい年も、財団の目的である茶道文化の普及発展に、地域の伝統文化の発掘と継承に、文化活動の助成等に貢献してまいります。

平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日までに実施予定の文化事業。  
詳しくは助成基準をご覧ください。

### 応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。（HP参照）  
応募締切は、平成三十年一月末日。

### 平成三十年度 助成金応募受付中

審議委員会による書類審査を行い、必要があればプレゼンテーションを開催。平成三十年三月末までに結果をご連絡致します。

平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日までに実施予定の文化事業。  
詳しくは助成基準をご覧ください。

### 助成金

三十万円を限度とし、活動に応じた金額を審議委員会が決定致します。

### 対象事業

平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日までに実施予定の文化事業。  
詳しくは助成基準をご覧ください。

助成基準、所定の申請書等は、当財团ホームページよりご確認いただくか、事務局までお問合せ下さい。



〔声・情報お寄せください〕  
〒760-0017  
高松市番町二丁目一一一二  
公益財團法人 中條文化振興財団編集部  
TEL(087)826-3355  
FAX(087)826-2212  
info@chujo-zaidan.or.jp